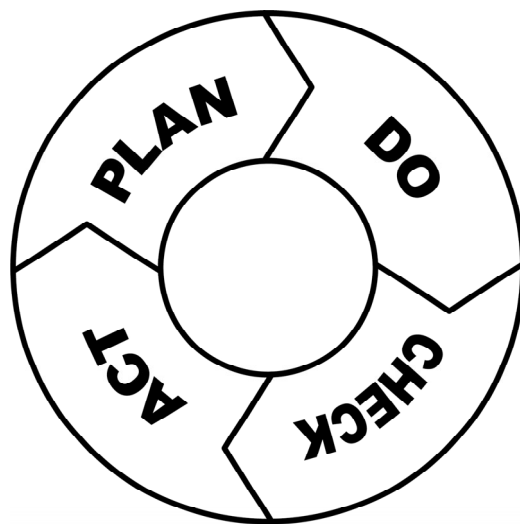


令和4年度後期

授業に関する自己点検評価シート



令和5(2023)年9月

函館大谷短期大学 F D 委員会

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|----|
| 担当科目名 | キャリアデザインB | |
| 講義区分・開講期 | 演習 | 後期 |
| 担当者名 | 濱嶋幸司 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <p>本講義では、卒業後の就職に留まらず生涯にわたるキャリアについて広く学ぶ。キャリアデザインAで習得した知識に加え、各自の自己分析、業界研究をより洗練させる。将来に向けてのより充実した生き方とはどのようなものなのか、履修者各自なりの方向性を見つけていく。</p> <p>講義形式を中心とするが、学生自身の報告の場を用意するので積極的な準備が必要となる。</p> | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <p>履修者へは各回資料を配布する。また、能動的な学修（履歴書の作成と添削）、振り返りの課題を実施する。</p> <p>以下の到達目標を重視した授業を実施する。</p> <p>①自分のキャリアデザインを聴き手・読み手に明確に伝えることができる（報告会の実施）。</p> <p>②実際に業務に従事している方のお話を聴いて、働くとはどういうことが理解する（2回実施）。</p> <p>③卒業後の進路に向け、自己分析と業界研究を済ませ、履歴書の雛型を用意することができる（数回時間をかけて完成へと導く）。</p> | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <p>シラバスに記載した各回（全15回）の授業は実施できている。昨年度メイクアップ講習は女子学生のみ、男子学生は別課題と面接練習を実施したが、今年度は講師を変更し、男女一緒に実施することができた。</p> <p>授業評価アンケートの有効回答は24名であった。総合的な満足度も4.77（昨年度は4.43）となっており、報告会・ゲスト講師・就活準備（メイクアップ）の重要性を理解したのではないかと判断する。今回も学外の企業から職場について、就職活動について講和をいただいた。学生のリアクションはキャリアについて真剣に学んだ様子が伝わった。</p> <p>予習・復習の週平均時間がやや上がった（2.05（昨年度は1.64））。しかし、もっと上がってよいはずだ。</p> | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <p>途中で不参加になった（結果、退学）学生が今年も2名いた。</p> <p>担当者自身が今年度で退職のため、次年度からは担当教員が変わる。新体制で学生自身がキャリアを見据え、就職活動（履歴書作成、企業エントリー、面接）への意識を高めさせ、成果に結びつくよう指導を続けてもらいたい。</p> | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|--|----|
| 担当科目名 | マーケティング | |
| 講義区分・開講期 | 講義 | 後期 |
| 担当者名 | 伊藤 好一 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <p>本講義では、マーケティングの概念や手法、近年の動向について説明し、基礎的なマーケティング手法の修得および近年の社会の変化に対応するマーケティングの議論について理解を深めることを目標とする。主にパワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。</p> | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <p>初めに、時系列に沿ったマーケティング論の変遷を説明し、マーケティングの学問としての全体像を理解できるような講義を行なった。そして、各理論の特徴を、時代背景と共に紹介し、感覚的にも理解できるような内容とした。また、マーケティングの実践例を積極的に説明し、マーケティングを実務的な面からも理解できるように講義を行った。毎回の講義でリアクションペーパーを配布し、意見や質問を積極的に集め、次回講義で必ず回答するように努めた。昨年度に挙げた改善策を踏まえて、各講義の最後に具体的な復習・復習の指示を出し、次回講義時の最初に復習・予習の出来を確認するような時間も設けた。また、資料など用いて、授業開始時にそのつど到達目標を明確に示し、学生たちが学習のステップを意識して受講できるような工夫を実施した。</p> | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <p>多くの項目で4以上と概ね良好な評価を得たと思われるが、「予習・復習の週平均時間」のみ1.72と課題を残す結果となった。昨年度の課題点であった「到達目標の達成」3.56、「予習・復習の週平均時間」1.31と今年度のポイントと比較すると、どちらも増加（3.56→4.00、1.31→1.72）していることが確認できる。これは昨年度挙げた改善策を今年度実施したことによる結果であると考えられる。また、「総合的な満足度」は4.74と、昨年度より0.01ポイントだが減少しているため、今後より一層、高い評価を得られるように努めたい。</p> | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <p>「予習・復習の週平均時間」について、より具体的な予習・復習の指示をこまめに出し、しっかりと自覚的に自習に取り組めるような意識づくりを行っていきたい。そして、今後も引き続き、次回講義時に振り返りを行う時間をとり、学生自身がしっかりと到達具合を把握できる機会を設けることとする。</p> | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|--|---------------|
| 担当科目名 | 情報基礎演習 II | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ ✓演習 | 前期 ・ ✓後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 三浦 久典 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | Excelでの実践的なデータ分析の手法を演習課題を解きながら身につける。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 生徒の興味や理解度を確認しながら、優先すべき課題を勘案し授業毎にテキストを準備。実習を通して実務的な操作を実践。講師は見回りながら、生徒のサポートを行う。 理解の早い生徒、興味のある生徒は応用した技術を習得できるよう、応用課題を準備し実践できる環境にする。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | 総合的な満足度について一定の評価はいただいたが、以下項目の改善が必要。 【予習・復習の平均時間】 前期に比べて0.7ポイントほど予習復習時間が増えたが、まだ低い数値なので、予習復習を習慣づける作る仕組みが必要。 【授業の目的の明確さ】 【話し方や説明】 資料に目的を記載する等の対策をしたが前期と比べてポイント改善せず。わかりやすい説明と達成目標の工夫が必要 【教材や機器の使用などの工夫】 資料の印刷を一回り大きくし、作業手順を細かく記載することで前期に比べて改善することができた | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | 【予習・復習の平均時間】 引き続き課題や理解度を確認するテストなどを増やし習慣的に学ぶ環境を準備する。 【授業の目的の明確さ】 【話し方や説明】 資料に依存せず、達成目標・実例などを交えたわかりやすく丁寧な説明に努める。 講師から生徒への一方通行にならないような話し方を工夫 【教材や機器の使用などの工夫】 さらにわかりやすくするため、丁寧に意見を聞いていく。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|---------------|
| 担当科目名 | 中国語会話 | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ ●演習 | 前期 ・ 後期 ・ ●通年 |
| 担当者名 | 陳儀萍 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | 中国語の漢字の音を示すピンイン、特有の四声、基礎的な文法、基本フレーズなどを学ぶことで、簡単な中国語会話を身に着けることが目標です。 授業は教科書を用いて、講義と演習形式で行います。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 授業を受ける前に予習する事と受けた後で復習する事ことです。予習と復習はそれぞれに宿題を出します。そうすることにより、より授業内容の理解が高まり、スムーズな授業になります。 文化学習に中国茶と中華料理を授業にいれ、中国文化とのふれあいができます。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | 学生に十分な予習、復習と宿題を要求し、それは方針です。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | 基本的にあまり変わらないと思います。次の年度に学生の様子を見て、それに合わせて授業に行いします。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|---------------------------------------|
| 担当科目名 講義区分・開講期 | 韓国語会話B | |
| | <input type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 | 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 金 美敬 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | 実際に学んだ韓国語を必要な時、特に韓国旅行などで役に立つことを目標とする。 授業の方法は、講義形式で、教科書やworkbookを利用し、学習を行う。また、グーグルことにZoomでの会話練習を行い、実際会話練習をさせる。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 韓国語での会話練習を通して、韓国語を身につける。workbookを利用し、授業の内容を理解させる。また、授業内の小テストを行い、理解力を確認する。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | 韓国語にもっと興味を持つように、学習環境を作ることが必要だと思う。また、復習や予習や課題などで、積極的に授業に参加させることも必要だと思う。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | 韓国語の学習に関する目標意識を持つように工夫する。予習として教科書での課題を出し、次回講義までに行ってくるようにする。復習は、教科書の問題やプリントなどで学習させる。また、グループを組んで、楽しく参加できる会話中心の授業を行う。演習のやり方を増やす。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|--------------|
| 担当科目名 | プロジェクトワーク | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ 演習 | 前期 ・ 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 丸藤 競 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | できるだけ興味をひき考えやすいよう、函館市の現状等身近な課題、最新のデータ等を取り入れながら、まちづくり活動に関する基本的な知識や考え方、課題解決に向けたワークショップのやり方等を知り、実践できるようにする テーマごと、座学（基礎的知識等の共有）→ワークショップ（実践）という流れを基本とした。 将来、プロジェクト等のリーダーになれるようにする。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 座学では、動画や実例を積極的に取り入れ、分かりやすく伝える工夫をした。 また、最新データについてもできるだけ分かりやすく伝えられるよう、グラフ等での表現を工夫した。 ワークショップではテーマに応じて手法を変え、より効果的な議論や思考ができるようにするとともに、その手法を他のプロジェクトでも活用してもらえよう心掛けた。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | 授業の目的の明確さや教材・機材の使用については高い評価を得たが、予習復習・授業への出席については点が低かった。 次の授業につながるような事前課題や、興味を持ち続けられるテーマ設定等の工夫がもっと必要だったかもしれない。 学生の理解度を見ての授業展開や、意見や質問の出しやすさの配慮もやや低い点になっているので、学生とのコミュニケーションを図る部分が欠け、一方的になっていたところがあったと思われる。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | テーマをより学生と親和性の高いものにし、興味と関心を持てるものにした。 また、学生とのコミュニケーションを図りながら、双方向で進めて行けるような内容にしていきたい。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|---------------|
| 担当科目名 | 情報機器利用プレゼンテーション演習 | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ ✓演習 | 前期 ・ ✓後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 三浦 久典 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | プレゼンテーションソフトや動画編集、音声編集、画像作成などプレゼンテーションに関わるアプリケーションの演習を行う。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 生徒の興味や理解度を確認しながら、優先すべき課題を勘案し、到達目標へ向けた授業を実践。 講師は見回りながら、生徒のサポートを行う。 理解の早い生徒、興味のある生徒は応用技術や参考資料等を紹介し実践できる環境にする。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | 総合的な満足度について想定より高い評価はいただいたが以下項目の改善が必要。 【予習・復習の平均時間】 授業で使用するソフト等を考慮して授業内で完結する内容としていたが、それもあり予習復習時間が少なかった。予習復習を習慣づける作る仕組みが必要。 【教材や機器の使用などの工夫】 ある程度高い評価はいただいていたが、特にアプリケーションは進化の早い世界であるため、まだまだ調査と工夫が必要と感じた。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | 【予習・復習の平均時間】 自宅にある環境で調査・作成するような課題などを用意し習慣的に学ぶ仕組み作りをする。 【教材や機器の使用などの工夫】 生徒の利用するPC・スマートフォンなどの環境をふまえた上で、目的に沿った使いやすいアプリケーションを調査し授業に取り入れていく。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|--|----|
| 担当科目名 | カラーコーディネーターⅡ | |
| 講義区分・開講期 | 講義 | 後期 |
| 担当者名 | 吉田麻子 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 色彩検定2級検定合格のために必要な知識を体系的に取得できること。 ・ 色彩学の豊かさを感じられること。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「色彩検定2級公式テキスト」に基づき、検定合格のために必要な知識を体系的に取得できるよう章ごとの要点を踏まえ、ワークなどを盛り込んだ授業を実施した。 ・ 毎回の小テストに実施によって復習の重要性を習慣づけるようにした。 ・ 初回と最終回は色彩検定から離れた人生や生活全般と色彩とのかかわりについての講義を設定した。 ・ 街の中の配色探しやパッケージカラー演習など、課題作成の宿題を充実させた | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が授業時間以外で予習、復習をする時間の少なさが明らかとなった。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「色彩検定テキスト」に基づく講座は6回目以降とし、5回目までは自宅学習を促す「実践レポート」を次週までに作成する流れとする。 ・ 毎回の小テストの実施及びその点数が評価につながることの周知により、自宅学習を促進する。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|--|--------------|
| 担当科目名 | 障害者福祉論 | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ 演習 | 前期 ・ 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 渡谷能孝 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <p>支援者として資格を有するうえでの基礎的な知識、または障がいに応じた各種支援方法に関する知識を深め、現代社会における障がい者福祉について向き合い、考えることで、支援者としての資質向上を図ることをねらいとした。</p> <p>スライド等を用いた講義形式で授業を行い、グループ枠なども交え、障がいにかかわる福祉課題などについて考えた。</p> | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <p>障がい者福祉の流れや日本における障がい者福祉の発展に関して授業を展開することで、現代社会における障がい者福祉課題について、学生自分自身の想いや考えを明確にすることができた。</p> <p>7コマ目以降の講義について、各種障がいの理解と支援方法について学習する中で、より身近に障がい者を理解することができ、支援者としての質を高めることができたのではないかと考える。</p> | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <p>授業評価アンケートからは、予習、復習への取り組み時間がやや少ないことから、次回講義までの課題提出等、こちらからの仕掛けづくりも必要となってくると感じた。</p> <p>総合的な評価としては高く、これからも講義内容をアップデートし、継続した形で実践できると良いのではないかと考える。</p> | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <p>予習課題内容の提示。 学生の学習意欲を維持できる仕掛けづくり。</p> | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|--|---|--------------|
| 担当科目名 | 教育カウンセリング心理学 | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ 演習 | 前期 ・ 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 阿部 千春 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↳ | <p>教育領域における心理的問題、個と集団との関係などについて教科書や体験を通して学ぶ。教育カウンセリング心理学に関する基本的な知識と技法を習得することを目的とする。</p> <p>教科書と講義資料を用いて講義形式で行い、ペアワークやグループワーク、グループディスカッションなどの演習も行う。授業内で行う試験を受験することとレポートを提出することが単位認定の必須条件となる。</p> | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↳ | <p>本講義は、日常の保育・教育で生かすことのできるカウンセリングやさまざまな対人援助場面でのコミュニケーションのあり方や援助のしかたについて教科書や体験を通して学ぶことを目的に行った。2月下旬に教育カウンセラー補の認定試験を受験する学生がほとんどであるため、重要ポイントを整理し、基本的な知識や技法の定着につながるように全体・個別での指導対応を行った。</p> <p>構成的グループエンカウンターやソーシャルスキル教育の演習では、前期までの関係性がうまくできていたこともあり、4名とも深い自己開示や展開ができており、学生たちにとっては有意義な学びの時間であったことが感想カードからも伺えた。</p> <p>学生には感想を書かせる冊子を毎時間配付しているが、学生にとっては、学習内容を振り返り、思考を練り、自分の思いや考えを表現する機会となり、学習内容についての理解の深まりや、疑問を解決していこうとする知的探究心にもつながったといえる。</p> | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↳ | <p>教育カウンセラー標準テキスト中級編の内容であったが、難しさを感じさせないような提示に努めたが、新たな学びに対して意欲的であった（「新しい知識や技能の習得」5.00）。さまざまな課題やテーマ、グルーピングの際のメンバーを考慮し、グループ内での役割を明確にするなど工夫することで、人数の少なさをあまり感じさせず、徐々に相互の関係性の深まりや、選択したコース学習内容に対する意欲の高まりなどにつながっていったといえる。保育・幼児教育の現場でどのような支援ができるかなど真剣に問題に向き合うことができていた（「授業内容への興味関心」5.00）。</p> | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <p>○今後も SST のリーダー体験の演習について、より丁寧な指導対応を行うことにより実践的で協同的な学びへとつなげる。</p> | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|----------------|
| 担当科目名 | 子ども家庭福祉 | |
| 講義区分・開講期 | (講義) ・ 演習 | 前期 ・ (後期) ・ 通年 |
| 担当者名 | 大島 文輝 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | 1、子どもの権利への理解をする。 2、子ども家庭福祉の実施体系を理解する。 3、子どもを取り巻く現状や課題を理解する。 上記目標を基にテキスト、またプリントや、パワーポイントを用いて講義を実施。またグループワークを通して課題を考える時間を持つ。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷等を学び、子どもの人権擁護、制度、実施体系等について事例を用いて検討する事や動画を視聴し理解ができるよう取り組んだ。 また実施主体を制度、法に照らして把握できるよう、テスト方式を用いた。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | テキストと連動してパワーポイントや動画視聴で、より理解ができるよう取り組んだが、動画から課題を適切に導く配慮に欠けていたように思う。またパワーポイントの進め方は学生の板書時間を確保することに欠け、個々の理解度や学習意欲を把握せずに進めていた面があり、時間配分も配慮に欠けていた面があった。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が授業に興味を持つことができ、個々に沿って理解が進む時間配分を持つことや都度の確認を行う。 ・ 動画活用の際には、きちんと課題を絞り、学生個々が自分の考えを持つことができ、ディスカッションにつながるものにしたい。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|--------------|
| 担当科目名 | 子ども家庭支援論 | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ 演習 | 前期 ・ 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 齋藤 征人 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | 保育の現場で働くことを目指す者として「家庭」について理解できる。子どもを取り巻く生活状況の多様性を理解できる。子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援について理解できる。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | 教科書を用い、講義形式で行った。 また、授業において適宜小レポートの提出を求めた。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | 多くの項目について4.0前後となっており、総合的な評価も4.0を超えている。 ただ、予習・復習についての指示が不明瞭だったことから予習・復習の週平均時間については1.75にとどまった。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | 授業において予習・復習についての指示を具体的に示すことで、予習・復習の習慣と学習時間の向上を促していく。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|--------------|
| 担当科目名 | 社会的養護 I | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ 演習 | 前期 ・ 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 長谷山 哲平 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的養護における基礎知識を習得できる。 ・ 児童の権利について自身の考えを他者へ説明することができる。 ・ 現場で対応したケースなどを用いて、ケース検討等を行うことができる（個人情報保護法に留意する）。 | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・ テキストを用いての授業。 ・ 参考教材（福祉新聞や介護新聞等）をもとに個人ワークやグループディスカッションを行い他者と自身の意見を比較する。 ・ DVD教材を用いて映像を視聴して学びを深める。 | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標についてはおおむね達成できた。 ・ コロナ感染等の危険性があったため、グループワークやグループディスカッション等については実施を避けた。 ・ 卒業後の進路についても選択肢を増やすことができた。 ・ 予習時間の確保については、少ないと感じるため、今後の授業については改善点あり。 | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な予習時間確保のため、レポート等の課題提出について方法論を検討する必要がある。 ・ DVDやその他の教材についての充実を図り、より具体的なイメージを持てるように授業を進める必要がある。 | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|--|--------------|
| 担当科目名 | 教育課程論 | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ 演習 | 前期 ・ 後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 飯田 泰子 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <p>幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育所・認定こども園における指導計画立案の必要性について学習する。</p> <p>幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実情を見通した計画立案の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しをもつことの重要性を学んで行くことを目的とする。</p> <p>授業の方法としては、前半は講義を中心に進め、後半は演習を行う。</p> | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <p>授業計画に沿った内容の資料やプリントを用いて講義や演習を行う。幼稚園の事例をできるだけ多く伝え、幼児理解を深めていけるよう心掛けていた。</p> <p>演習内容は、年間行事・日案・週日案等の作成の他、幼児理解を深めるため、事例から子どもの想いや育ちを読み取っていく演習も行う。また、時には、数人のグループを作り、意見を出し合いながら、子どもの姿をベースとした指導計画立案の演習も行う。</p> | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <p>15回の授業を通して、全体的に欠席者は少なく、学生は、毎回行う演習に熱心に取り組んでいた。</p> <p>授業の進め方としては、一方的に話を進めていくことが多くなってしまったが、園での遊びや行事の時の子どもの様子等、具体的な事例を伝えた時は、実習に入っていた時のことを思い出しながら興味深く聞いていた。</p> <p>提出された演習のプリントで学生の理解度を把握していたが、それ以外に講義の中でも学生の考えを聞いたり、学生同士で意見交換をしたりする等、授業展開の方法を工夫していくことによって、更に学生の理解度を深めることができたのではないかと思う。</p> | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <p>15回という限られた時間数の中で、教育課程や指導計画の必要性、大切さを学生に伝えていけるよう、講義と演習のバランスを考慮した授業展開ができるよう工夫していきたい。また、現場での子どもの姿を伝えながら、学生が自分の考えを出しやすい授業展開を心掛けていきたい。</p> | |

令和4年度 授業に関する自己点検評価シート

| | | |
|---|---|---------------|
| 担当科目名 | 保育内容研究Ⅱ（言葉） | |
| 講義区分・開講期 | 講義 ・ ○演習 | 前期 ・ ○後期 ・ 通年 |
| 担当者名 | 小林恵理子 | |
| PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓ | <p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等、言葉の領域範囲が広い中で、乳児期から幼児期へと言葉が発達する過程で、子どもがどのように言葉を獲得していくのか道筋について、理解することができるように目標設定をした。</p> <p>また、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容についてしっかり理解することができるようにした。</p> | |
| DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓ | <p>保育の意義及び目的、幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法などについて、具体的な子どもの様子は、教科書を使わずDVD・写真等を用いて講義形式で授業を行った。</p> <p>子どもの言葉の発達、保育・教育の役割に関する基礎的理論の説明について、この領域の中心となる部分をプリントして配布し、それを中心にして、絵本や紙芝居、エプロンシアターの教材研究は、実演演習を行った。</p> <p>また、グループに分かれて、ペープサートを作成し、最終的には発表会を実施した。</p> | |
| CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓ | <p>講義の10回までは、プリントを中心に、ポイントを絞って講義を進めていくようし、演習では、学生一人一人がグループ内で意見を出し合いながら、ペープサートを協力して作成、発表することで、充実感を味わうことができるようにした。</p> <p>ペープサート製作中は、必要に応じて個々のグループへのアドバイスを徹底した。</p> | |
| ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し | <p>今年度は、教科書を使用せずにプリント配布で講義を実施してきたが、学生の予習、復習の時間確保が難しかったようだ。</p> <p>次年度は、学生が予習、復習しやすいような記録の仕方（講義終了後に簡単なレポート提出をする）等、工夫していきたい。</p> | |